

## 2022 年度の活動報告

### 総務

#### (1) 会員数

- ・ 2022 年度は入会者 4 名、退会者 8 名であった。年度末会員数は 2021 年度より 4 名減の 70 名となった。うち女性会員は 19 名である。
- ・ 入会者 4 名  
松田裕美氏 (4 月 19 日付)      清水由賀氏 (5 月 2 日付)  
石田千尋氏 (6 月 2 日付)      川野 亮氏 (7 月 19 日付)
- ・ 退会者 8 名 (3 月 31 日付)  
大沼照美氏、小久保和代氏、佐々木隆宏氏、柴田英知氏、松田裕美氏、  
山野優妃氏、Dickson Kindole 氏、Eulid Kiprop 氏

#### (2) 年会費収入

- ・ 2022 年度の年会費納入者は 74 名、収入額(2023 年度の前納金 16,000 円を含む)は 312,000 円と、2021 年度の 290,500 円に比べて 21,500 円の増収となった。

#### (3) 会員紹介

- ・ SRID ジャーナルの「会員紹介」欄において、第 24 号に鈴木宣行会員が紹介された。
- ・ SRID Newsletter の「新会員紹介」では、9 月号で清水由賀会員が紹介された。

### 全体行事

#### 第 49 回年次総会 (オンラインで開催)

- ・ 新型コロナウイルスの感染終息が見込まれないため、2022 年度の総会は 2021 年度に引き続き、Zoom によるオンライン総会を開催した。
- ・ 事前に議案書を配布し、4 月 16 日(土)20:00~21:50 に開催。参加者は 18 名であった。発声による採決を行った結果、いずれの議案も異論はなく、全会一致で可決された。
- ・ 神田会長より、新会員が増える中で活動への参加者が固定化することのないよう、懇談会の講師、サロンで発表、ニューズレターへ投稿など、何か一つ積極的に活動してもらいたい。また、役員メンバーがやや固定化しており、男女比がアンバランスであるため、新会員を含め、積極的に手を挙げて運営に参加していただきたい、と挨拶があった。

### 幹事会

#### 第 1 回幹事会

5 月 10 日(火) 2022 年度の懇談会の年間計画について検討した。

## 第2回幹事会

6月14日(火) 第2回キャリア開発研修「国際開発プロフェッショナルコース」の10月実施、及びSRIDジャーナル第23号の目次について了承した。

## 第3回幹事会

7月12日(火) Homepageの更新、Journalのアップロード、Newsletterの編集などIT作業の分担について検討し、担当幹事を1名追加した。

## 第4回幹事会

8月9日(火) ジャーナル編集委員会が第24号の原稿を会員から募集することにした。軍の弾圧に苦しむミャンマー市民のために何かできないか、との問題提起があった。

## 第5回幹事会

9月14日(火) キャリア開発運営委員会より、ロスター制度とNewsletterの創設、女性のためのオンライン塾の開催等を報告した。SRIDネットのWPサーバへの移行を了承した。

## 第6回幹事会

9月13日(火) 第5回SRIDフォーラムを2023年1月～2月中旬に開催することが提案された。特定のテーマを設けずに、個人的な関心事について意見交換を行うこととした。

## 第7回幹事会

11月9日(水) 「国際協力サロン(ICS)」という団体からIDPCを集団で受講したいとの申し出があり、了承した。キャリア開発事業専用のZoom契約を了承した。永杉豊 MIAO 代表の講演会を会員有志による「勉強会」のテストケースとして実施する。第5回SRIDフォーラムを2月4日(土)にオンラインで開催する。パネルのテーマを決めて発表者を募集する。

## 第8回幹事会

12月13日(水) SRID勉強会の制度化について議論した。2月のSRIDフォーラムをジャーナル第24号の特集と連携して開催することにした。

## 第9回幹事会

1月10日(火) SRIDフォーラムのテーマ、開催要領をほぼ確定した。SRID勉強会の設置を年次総会の承認事項とすることを了承した。次回以降、新年度の人事について検討する。

## 第10回幹事会

2月14日(火) SRIDジャーナルの 카테고리 拡大、SRID勉強会の設置、2023年度の年次総会、役員人事について検討した。

## 第 11 回幹事会

3 月 8 日(水) 第 50 回年次総会議案書(2 次案)について検討した。

## 第 12 回幹事会

4 月 12 日(水) 第 50 回年次総会議案書(最終案)を確認した。

## 懇談会 (オンラインで開催)

- ・ コロナ禍の為に 2020 年度よりオンライン開催とした懇談会は、2022 年度計 3 回の開催となり、目標としていた年 4 回以上の開催とはならなかった。これは予定していた講師との調整が不調となった回があった為である。しかし、毎回、SRID 会員 25 名程度を含む、定員 100 名を超える参加申し込みがあり、SRID の対外発信プラットフォームの一つとして、引き続き定着している。
- ・ オンライン開催と合わせて、グーグルフォームによる懇談会参加申込を採用していることで、幹事の負担が大幅に軽減されている。さらに、グーグルフォーム書式内に SRID 入会の有無、及び SRID ジャーナル配信希望とキャリア開発塾カウンセリング受講希望に関する質問を入れていることで、それぞれの申込増加に繋がっていると思われる。
- ・ 以前の対面懇談会後に開いていた講師を囲むネットワーク懇親会は、オンライン開催のため残念ながら開催できていない。懇談会報告は引き続きそれぞれ直近のニューズレターに掲載した。(小林<sub>♀</sub>)

## 第 1 回懇談会

5 月 17 日 講師はデロイトトーマツ・ファイナンシャルアドバイザーの佐々木仁マネージングディレクター。テーマは「途上国における PPP 事業投資の最新動向と課題」。

## 第 2 回懇談会

12 月 20 日(火) 講師は元 UNICEF、現在神戸市外国語大学講師の松田裕美会員。テーマは「国連の結果指向型管理方式(RBM)―理論と現実の狭間で」。

## 第 3 回懇談会

2 月 21 日(火)20:00~22:00 講師は政策研究大学院大学の野野泉教授。テーマは「変化する世界における日本の開発協力:2015 年開発協力大綱の実施と改定に向けた論点」。

## SRID フォーラム (オンラインで開催)

- ・ 第 5 回 SRID フォーラムは、2023 年 2 月 4 日(土)12 時~15 時(日本)、5 時~8 時(アンカラ)、4 時~7 時(ローマ)、4 時~7 時(ローマ)、2 月 3 日(金): 22 時~25 時(ワシントン)、に ZOOM 形式で開催した。参加者は 24 名であった。
- ・ 今年度は、ウクライナ侵攻後の世界の政治経済の動向を踏まえ、「分断化する世界: 国際協力の今後を探る」をテーマとして、3 つのパネルを設定した。パネル 1 と 2 では、SRID ジャーナルと連携し、直近のジャーナルの論稿執筆者の発表に対し、予めこの論稿を読んだコメンテーター 2 名が補足やコメントを行い、その後、モデレーターの手で参加者を含め討議を行う形式とした。また、パネル 3 では、関連して途上国の現状について、

在外会員等からの報告を受けた。

- ・ パネル1では、世界の構造的変化の政治面に焦点を当て、高橋一生会員による「分断と絆：逆流する歴史と進展する歴史」と題する発表をもとに、福田幸正会員、鈴木博明会員からのコメントを得て、モデレーター：松田教男で議論した。
- ・ パネル2は経済面に焦点を当て、湊直信会員による「世界の経済秩序の不安定化と危機」と題する発表に対し仲浩史会員、高橋正貴会員によるコメント・補足をもとに、モデレーター：玉置佳一で討議した。
- ・ パネル3は途上国の現状について、4名の会員から発表の後、質疑を行った。発表者：高田有一郎（在トルコ）、春藤健二（チュニジア）、奈良玲子（イラン）、川野亮（在バンラデシュ）、モデレーター：小林文彦が務めた。
- ・ 概要はSRID Newsletter 4月号に掲載した。（神田）

## ニュースレター

No.519(2022年4月号)

自論公論「脱炭素と産業政策」(神田道男)

第5回懇談会報告 川嶋雄作・世界銀行上級イノベーション専門官「MDBs 最前線からの報告— 国際開発に人工知能ができる貢献」(小林文彦)

会員便り「還暦で見たベテラン競技テニスの世界」(山岡和純)

No.520(2022年5月号)

第49回年次総会報告(事務局)

第2回「国際開発分野で働く女性のフォーラム」報告(森田宏子)

私の異文化体験(その2)「農村のゴミ収集・処理モデルの開発と普及を推進」(藤村建夫)

No.521(2022年6月号)

自論公論「水情勢の実態把握の難しさ」(岩波美智子)

第1回懇談会報告 佐々木仁・デロイトトーマツ・ファイナンシャルアドバイザーのマネージングディレクター「途上国におけるPPP事業投資の最新動向と課題」(小林文彦)

私の異文化体験(その3)「MJET 学生部による環境教育と村人との交流」(藤村建夫)

No.522(2022年8月号)

自論公論「ミャンマー：ウクライナ侵攻により忘れられゆく戦場」(高橋正貴)

6月のサロン報告 池田明子会員「世界的な危機下での生きる教訓とエジプト生活」(藤村建夫)

図書紹介「三浦按針の謎に迫る」(高千穂安長)

No.523(2022年9月号)

自論公論「ミャンマーの民主化支援について」(山下道子)

8月のサロン報告 大島清治会員「世界民族仮面ブチギャラリーの開設」(藤村建夫)

新会員紹介「心に地球儀と、望遠鏡と顕微鏡を持って」(清水由賀)

No.524(2022年10月号)

自論公論「ミャンマー情勢に対する国際社会とASEANの動向」(松田教男)

会員便り「エチオピアの不思議な暦、そして新年」(豊間根則道)

No.525(2022年11月号)

キャリア開発研修報告「第2回 国際開発プロフェッショナルコース」(藤村建夫)

第3回女性のためのオンライン懇談会報告 児玉治美氏「女性がワークライフバランスを保ちながら開発分野で活躍するには」(森田宏子)

SRID 仮面ツアー報告「山梨市・世界民族仮面プチギャラリーを訪問して」(山下道子)

No.526(2023年1月号)

自論公論「国際紛争とエネルギー政策・その1」(高橋正貴)

第2回懇談会報告 松田裕美会員「国連の結果指向型管理方式(RBM)」(小林文彦)

ミャンマー支援に関する講演会報告(永杉豊氏による講演)(山下道子)

No.527(2023年3月号)

自論公論「国際紛争とエネルギー政策・その2」(高橋正貴)

1月のサロン報告 中沢賢治会員「最近の写真展と私家版写真集の紹介」(藤村建夫)

第3回懇談会報告 大野泉氏「変化する世界における日本の開発協力」(小林文彦)

No.528(2023年4月号)

自論公論「Data with Human Face—ジンバブエにおける全国家庭調査より」(松田裕美)

第5回 SRID フォーラム報告「分断化する世界:国際協力の今後を探る」(神田道男)

## SRID ジャーナル

### (1) 編集委員会の開催

2022年度の企画・編集は湊直信編集委員長以下、浅沼信爾、高橋一生、福田幸正、藤村建夫、山岡和純、中島千秋の7名が担当した。編集会議を4月26日、6月30日、10月3日、12月12日の4回開催した。浅沼委員と藤村委員が退任を表明した。新たに、玉置佳一会員と佐藤桂子会員が委員に就任した。

### (2) 第23号及び第24号の発行

- ・ 第23号を7月26日に発行した。論説では、ロシアによるウクライナ侵攻の余波を受けて、政治的経済的危機にあるトルコとスリランカの実情を解説した。
- ・ 第24号を2023年1月11日に発行した。特集は「構造的変化が進む世界の危機と国際協力」。巻頭論文「分断と絆:逆流する歴史と進展する歴史」(高橋一生)と論説「世界の経済秩序の不安定化と危機」(湊直信)がSRIDフォーラムで報告された。

### (3) 外部配信者数の増加

2023年2月26日時点でのジャーナル登録者は592名と、順調に増加している。(湊)

## キャリア開発事業

### (1) 運営委員会

鈴木委員長以下、神田道男、小林文彦、佐藤桂子、浪川真悠子、藤村建夫、森田宏子、山岡和純、の7名が運営委員を務めた。運営委員会をオンラインで 2022年9月及び 2023年 3月、の2回開催した。

## (2) 事業の実施

以下の通り、ほぼ事業計画通り実施した。

- 1) 国際開発プロフェッショナル能力向上研修(IDPC): IDPC No.2 (AFICS の協力により実施)、及び ICS-IDPC No.3 (国際協力サロンの要請を受けて実施)。
- 2) キャリア開発カウンセリング: 26 名に対して実施した。そのうち、受講生 2 名が UN JPO (UN Junior Professional Officer) に採用された。
- 3) 開発分野で働く女性のためのフォーラム No.3 を実施。
- 4) 出張講座: ICS-IDPC は出張講座と IDPC 研修を兼ねて実施。
- 5) ロスターの作成・運用: 累積 47 名登録。
- 6) 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携: 実施せず。
- 7) カウンセリング講師の能力向上を目的とし、①Coaching 専門家によるワークショップを開催、②国家資格 キャリアコンサルタント養成講座テキスト全 6 冊を購入。
- 8) キャリア開発に役立つ情報の提供: 「SRID キャリア開発」を 3 月と9月に配信。

表 A. 年度別キャリア開発事業実施状況

活動内容	2020		2021		2022	
	件数	参加者	件数	参加者	件数	参加者
出張講座	0	0	0	0	0	0
IDPC 研修			1	12	2	16
カウンセリング(注)	20	20	28	28	26	26
女性 CDP フォーラム			2	130	2	16
学生団体活動支援	0	0	0	0	0	0
SRID キャリア開発配信			2回		2回	
ロスター累積登録者数	13名		31名		47名	

(注) IDPC 受講生込み

事業予算執行は、IDPC 研修の独立採算を含め、収入限度内の支出となり、若干の余剰金が生じ、2023 年度に繰り越しされた。詳細は事業会計報告の通り。(鈴木)

## 他団体との連携推進

- ・ RITA-Congo に、米川共同代表から紹介された本(Sebarenzi, Joseph, Mullane, Laura 共著、《God Sleeps in Rwanda: A Journey of Transformation》)の書籍紹介文を、2023年5月に提出した。(同紹介文は、SRID ジャーナル編集委員会にも提出したが、「2021年8

月配信の SRID ジャーナル第 21 号で、類似の分野(ルワンダでのジェノサイドと周辺国)での書籍紹介文(Judi Rever 著、In Praise of Blood, The Crimes of the Rwandan Patriotic Front)を掲載したばかり。」等の理由で、掲載に至らなかった。)

- SRID 懇談会の開催案内を毎回日本国際開発学会のメーリングリストに流した。
- 学会(国際開発学会、南アジア学会)、NGO(RITA-Congo)、Mekong Watch、テラ・ルネッサンス、Friends of Earth、REALS)、研究機関(地球環境戦略研究機関、アジア開発研究所、JICA 緒方研究所、日本国際問題研究所、DC フォーラム)などのメーリングリストで送られてくるオンラインシンポジウム、セミナーなどに参加し、連携相手を探したが、適当な相手は見つからなかった。(不破)

## SRID サロン

### 第 8 回 SRID サロン

6 月 4 日(土) スピーカーはエジプト在住の池田明子会員。テーマは「世界的な危機下での生きる教訓とエジプト生活」。参加者11名。概要を Newsletter 8 月号に掲載。

### 第 9 回 SRID サロン

8 月 27 日(土) スピーカーは大嶋清治会員。テーマは「世界民族仮面プチギャラリーの開設」(<https://kamen-tenji.com>)。参加者11名。概要を Newsletter 9 月号に掲載。

### SRID 仮面ツアーの実施

11 月 7 日(月)に SRID 会員 5 名が山梨市の「世界民族仮面プチギャラリー」を訪問した。大嶋清治会員(館長)より仮面と民族の文化・歴史の関係等についてレクチャーを受けた。その後、笛吹川フルーツ公園「ぷくぷく温泉」に立寄り、露天風呂から富士山を眺めた。

### 第 10 回 SRID サロン

1 月 28 日(土) スピーカーは中沢賢治会員。テーマは「最近の写真展と私家版写真集の内容紹介」。プロの写真家とデザイナーの指導の下で初めてまとめた写真集を紹介した。参加者 10 名。概要を Newsletter 3 月号に掲載。

## 講演会 (勉強会のテストケースとしてオンラインで開催)

11 月 29 日(火)20:00~22:00 にミャンマー国際支援機構(MIAO)永杉豊代表を講師に招き、勉強会のテストケースとして講演会「『ミャンマー危機』なぜ今、クロスボーダー支援が必要なのか」を行った。概要を Newsletter 1 月号に掲載した。参加者は 8 名。